



HPはこちら

# 東日本ユニオン NEWS

JR東日本労働組合  
発責 教育・広報部  
2021年6月6日 No.327

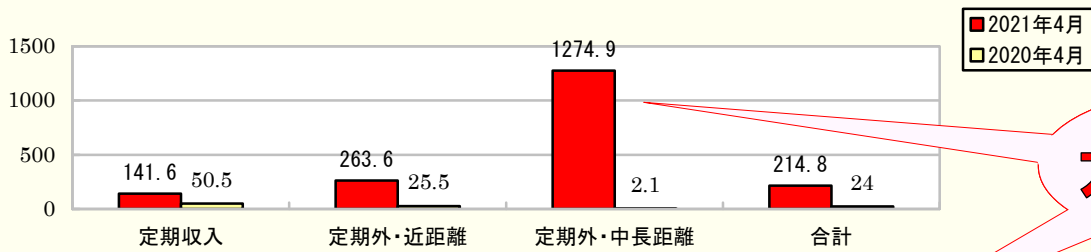
## 夏季手当シリーズ⑬

# コロナ禍でも業績は回復中！

さらなる社員の生活の犠牲の上に立った「黒字化」は認められない！

経営側は夏季手当の団体交渉で「新型コロナウイルスの変異株蔓延やワクチン接種の進捗状況によっては、業績回復がさらに後ろ倒しになる可能性もあり、今後の状況は未だに不透明だ」として「夏季手当の支給水準は例年に比べて慎重に判断しなければならない」とのスタンスを示しています。その根拠の一つに足元の業績悪化をあげていますが、本当に業績は回復していないのでしょうか。

▼4月の鉄道営業収入における対前年度対比（単位：％）



大幅回復！

▼6月1日現在の鉄道営業収入の累計（東日本ユニオン調べ）

定期収入	対前年比	定期外収入	対前年比	合計	対前年比
957億6,500万円	120.7%	1,259億3,900万円	312.7%	2,217億300万円	185.3%

私たち現場社員は、お客さまに安全で安心してご利用いただくと共に、業績回復にむけての努力を日々積み重ねています。その努力は、回復基調にある今期の業績に表れています。

もちろん、楽観視はできませんが、経営側がいう「健全な危機感」とは、記録的なインバウンド効果や社員の努力などによって、会社発足以来「過去最高の利益」を上げたトップラインである「2019年度業績との比較」であることを見なくてはなりません。

## これ以上の社員への犠牲は不安全や離職につながる！

JR東日本で働く社員は、昨年度の夏・冬ボーナスを対前年度で1.475ヶ月分、金額にして約50万円も減額させられた結果、職場でのコスト削減の取り組みとあわせて約1,700億円のコストダウンを実現し、赤字の圧縮に大きく貢献することとなりました。さらに今期は、2021年度新賃金における定期昇給は昇給係数が「2」と賃金カーブが大きく引き下げられています。

私たち東日本ユニオンは、会社の持続的成長と共に黒字化の実現に対する努力を惜しみませんが、その実現のために、さらに社員の賃金・手当の削減を強いることは認めることはできません！

## 「社員の働きがい」「黒字化」の原動力は満額回答しかない！